学報

SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY REPORT

2007.12.1
Vol.30

3453 Mikatahara-cho Kita-ku Hamamatsu-shi Shizuoka 433-8558 http://www.seirei.ac.jp

INDEX

	PAGE
特集 禁煙宣言	1
特集 活躍してます 在学生!!	3
私の教育・研究	5
保護者懇談会報告	6
聖書のことば	6
教育力向上のための取り組み	7
クリストファーニュース	8
研究助成	9
お知らせ	10

10月13日(土)に大学第一・第二体育館にて学友会主催のスポーツ大会が行われました。競技種目はバドミントンとドッヂボール、総勢約150名の学生が参加し、学部を越えた交流のよい機会となりました。

保健・医療・福祉の探究
聖隷クリストファー大学

学報 2007.12.1 Vol.30
聖隷クリストファー大学 学報
発行者 聖隷クリストファー大学 看護学部／リハビリテーション学部／社会福祉学部／保育学科／大学院 看護学研究科／リハビリテーション科学研究科／社会福祉学研究科
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 TEL053-439-1400 FAX053-439-1406 http://www.seirei.ac.jp

聖灯祭 2007

煌(きらめき) ～power of smile～

第6回聖灯祭はラジオ・新聞等での広報の甲斐あってか、例年より多くの方々にご参加いただけました。恒例の健康祭りでは各学部の特色を生かした活動ができ、聖隷クリストファー大学では普段どんな活動をし、どのようなことを学んでいるかなど、一部ですが知っていただけたのではないかと思います。これも各実行委員を始め、模擬店や各サークル等の有志の方々、並びに共に聖灯祭を盛り上げてくれた皆様のご協力のお陰だと感謝しています。これからも学外へ積極的に聖灯祭の輪を広げていき、ボランティアの方、地域の方と一体となり更に盛り上げていけたらと思います。

当日足を運んでくださった方々を含め、協力してくれた皆の笑顔とパワーで活気づいた今回の聖灯祭は、「煌～power of smile～」というテーマと共に皆の心の中で思い出の1つとして煌めき続けてくれると思います。

聖灯祭実行委員長
鈴木章紘 リハビリテーション学部2年次生
小﨑由唯 看護学部2年次生

前日にはメディアカー「元気かっとび君」も取材にきました

実行委員が揃いのシャツで受付

模擬店 おいしいですよ

ジャズ演奏大盛況

福祉車輌の展示もしました

恒例の健康祭り／左から:アルコールパッチテスト(看護学部)、心理テスト(社会福祉学部)、純音クイズ(リハビリテーション学部言語聴覚学専攻) どなたでも参加できます

著書紹介

「はじめて読む物理学の歴史」

安孫子誠也
看護学部 教授

安孫子誠也・岡本拓司・小林昭三・田中一郎・夏目賢一・和田純夫 共著／2007年3月／ベレ出版

本書は6名の著者(安孫子誠也、岡本拓司、小林昭三、田中一郎、夏目賢一、和田純夫)による合作であり、東大の岡本(科学史)、和田(物理学)両氏の呼びかけで始まった。私(物理学史)は熱力学史とアインシュタイン、小林氏(物理学)は素粒子物理学史、田中氏(科学史)はガリレオ、夏目氏(科学史)は電磁気学史の研究者として分担の依頼がなされた。全体は、序章「物理学の歴史」、第Ⅰ部「ニュートン力学の誕生」、第Ⅱ部「古典物理学の完成」、第Ⅲ部「現代物理学の展開」からなっている。各部には「通史」の章が付され、そこだけを読んでも全体の流れがつかめるよう工夫されている。私は第Ⅲ部の「通史1、現代物理学の誕生」も担当した。本書の特徴は、「ですます調」で平易に書くことと、読者に意味の通じないおそれがある用語は脚注で解説することを申し合わせた点である。「序章」には次のような但し書きがある。――物理学という分野が最初からあった訳ではなく、今日の物理学が対象としている領域の歴史で、しかも主にヨーロッパにおいて発達したそれを扱う。

読者アンケートのお願い

裏面の質問にご記入いただき、ポストに投函してください。

郵便はがき
433-8790
静岡県浜松市北区三方原町3453
聖隷クリストファー大学
総務部 行

料金受取人払郵便
浜松北支店承認
570
差出有効期限 平成20年10月31日まで 切手不要

フリガナ
名前
〒
住所
電話 ( ) ―
E-mail @
区分 □保護者 □その他( )

聖隷クリストファー大学
禁煙宣言
～望まれる福祉・医療人を目指して～

「なぜ、禁煙なのか？」

厚生労働省は健康日本21において「たばこのない社会」という社会通念を確立するために、「保健医療従事者や教育関係者は、国民に対する範として自ら禁煙に努める」と明記しています。また、たばこの有害性について科学的認識に基づいて考えれば、禁煙をしなくてはならない最大の理由は**自分自身と周りの人たちの健康のため**と言えます。たばこは火をつけたとたんに4000種類以上の科学物質を発生しその中の約50種類は発がん性物質と言われますが、喫煙者の吸う煙（主流煙）より、火がついているたばこからの煙（副流煙）により多く含まれていることがわかっています。"他人が吸った"たばこの煙を吸わされること（受動喫煙）により、たばこを吸わない人が自分の意志と関わりなくたばこの害を受けること、これを防ぐための取り組みが課題となっています。

保健・医療・福祉のスペシャリストを目指す本学学生が"加害者"になることを防ぐため

本学ではこれまでの「キャンパス内禁煙」によるゆるやかな禁煙推進から、「禁煙宣言」により喫煙者を禁煙に導く方向に体制を強化しました。

今回はその具体的内容をご紹介します。

2007年度から実施"禁煙へ向けての方策"

2007年度在学生

①「キャンパス内（駐車場および大学周辺地帯を含む）において喫煙しないこと」を誓う『宣誓書』を提出

②やむを得ず喫煙を希望する学生『暫定的喫煙場所利用の届出書』提出

→『暫定的喫煙場所利用登録証』発行→禁煙指導

2008年度以降入学生

入学時に『禁煙に関する誓約書』を提出

保証人連名のもと、禁煙を前提で入学していただきます。

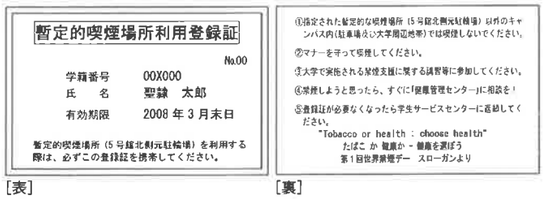
2009年度末

暫定的喫煙場所を廃止

2010年度から

全面禁煙

■暫定的喫煙場所利用登録証



暫定的喫煙場所利用登録証

No.00

学籍番号　00X000

氏　名　聖隷　太郎

有効期限　2008 年 3 月末日

暫定的喫煙場所（5号館北側元駐輪場）を利用する際は、必ずこの登録証を携帯してください。

①指定された暫定的な喫煙場所（5号館北側元駐輪場）以外のキャンパス内（駐車場及び大学周辺地帯）では喫煙しないでください。

②マナーを守って喫煙してください。

③大学で実施される禁煙支援に関する講習等に参加してください。

④禁煙しようと思ったら、すぐに「健康管理センター」に相談を！

⑤登録証が必要なくなったら学生サービスセンターに返納してください。

"Tobacco or health : choose health"

たばこ か 健康か － 健康を選ぼう

第1回世界禁煙デー　スローガンより

［表］　［裏］

これまでの経緯

2003年5月

「**健康増進法**」施行

2003年11月

キャンパス内禁煙実施　喫煙者は減少するもキャンパス周辺での喫煙が課題に。（表1参照）

2006年7月

将来的な全面禁煙に向けて、喫煙者への暫定的措置（ゆるやかな禁煙への一対策）として、キャンパス内に喫煙場所（1ケ所）を設置

2007年4月

「**禁煙宣言**」**制定**　全面禁煙のための新たな「禁煙宣言」を制定し、喫煙者を禁煙に導くための適切な「禁煙へ向けての方策」を具体的に実施開始

■表1／2006年度の学年ごとの喫煙率（2006年度定期健康診断　問診票より）

	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	全学年
大学全体	3.7%	5.5%	11.5%	10.0%	7.5%
看護学部	2.7%	2.7%	5.2%	8.0%	4.4%
社会福祉学部	4.4%	8.5%	19.0%	12.4%	11.6%
リハビリテーション学部	4.6%	6.6%	12.2%	7.7%	7.7%

学生にとって、禁煙は非常に重要で大きな課題です。

聖隷クリストファー大学 禁煙宣言

2003年5月1日に「健康増進法」が施行されました。

この法律の第25条に、大学など多数の者が利用する施設では「受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない」と定められています。

聖隷クリストファー大学では、保健・医療・福祉の専門職者を育成する大学としてかねてからキャンパス内禁煙を行なってきましたが、改めて「禁煙宣言」をするとともに以下の事項を推進します。

◎本学は、健康と福祉に関わる専門職者を育成する教育機関として全教職員・全学生の禁煙を目指します。

◎全学生ならびに教職員にとっての健康の維持と快適な生活環境を整えるためにキャンパス屋内外（駐車場および周辺地帯を含む）を全面禁煙とします。※1

◎あらゆる機会をとらえて禁煙を推進するための啓発活動を行ないます。

◎防煙教育（※2）、喫煙者に対する禁煙教育、禁煙支援活動を実施します。

◎受動喫煙による非喫煙者への健康被害および迷惑等の防止に取り組みます。

2007年4月1日

聖隷クリストファー大学　学長　小島操子

※1 暫定的な措置として、敷地内の1ヶ所（5号館北側元駐輪場）のみに「暫定的喫煙場所」を設置しています。努力してもなお学内で喫煙をせざるをえない場合は、この場所でのみ喫煙を許可します。また利用する際は、必ずマナーを守った喫煙をしてください。この「暫定的喫煙場所」は、2009年度末に廃止します。習慣化した喫煙をやめるためには大変な努力が必要ですが、喫煙による健康被害の防止を最優先に考え、一人ひとりが良識を持って禁煙に挑戦することを期待します。

※2 防煙教育とは・・未成年の喫煙を防止するために行なう喫煙防止教育のこと。

全学で、さらにご家庭でも支援を

健康管理センター以外にも、学生支援協議会（教員・事務職員）・学生部（教員）、学生個々の相談を受けるアドバイザー（教員）等が協力して禁煙支援に当たります。また学生組織である学友会も協力し、全学が一体となって、禁煙に取り組んでいきます。これは、保健・医療・福祉の専門職者を育成する上で、大変重要なことだと考えられるからです。保護者の皆様方も、どうかこれにご理解をいただき、ご協力いただければ幸いです。

具体的な禁煙指導・支援

本学では、禁煙を支援するために健康管理センターで次のような取り組みを行っています。

①1年次生全員に対する学校医による防煙教育（春セメスター・秋セメスターガイダンスで実施）

②暫定的喫煙場所利用者への禁煙導入教育（暫定的喫煙場所利用者講習）

③禁煙キャンペーン（世界禁煙デー［5月31日］・聖灯祭で実施）

④随時健康相談（希望者は学校医の禁煙指導・禁煙パッチの処方ができます）

暫定的喫煙場所利用者講習

●目的／今すぐ禁煙ができない学生に対して禁煙の動機付けを支援するとともに、禁煙を行動化できるよう働きかける。

●対象／暫定的喫煙場所利用者

●内容／所要時間約20分

1　タバコ依存度チェック

2　DVD視聴（14分）「今から始める喫煙防止教育」（日本循環器学会　禁煙推進委員会製作）

3　受講記録票記入

①禁煙についての関心度　②個別禁煙指導受講の勧め　③喫煙場所利用上の注意　④その他、質疑応答

4　配付資料

・タバコ依存度チェックの質問票

・卒煙ネットのチラシ

・ニコレット説明資料

・やにけん説明資料　など

禁煙指導室

聖灯祭で行われた禁煙キャンペーン

スモーカーライザーで呼気中の一酸化炭素濃度を測ります。（写真は聖灯祭・禁煙キャンペーンでの実践の様子。スモーカーライザーは健康管理センターに常備されています）

保健・医療・福祉のスペシャリストを目指す本学

学　友　会

学友会は、学生生活全般の発展向上に努め学生相互の親睦を深めるために、全学部生で構成される組織です。役員を中心に展開される年間行事（左図参照）の中で、今回はスポーツ大会の準備と本番の様子を聞きました。

学友会の年間行事

4月	新入生歓迎会
5月	学友会新体制スタート
6月	総会
10月	スポーツ大会
11月	聖灯祭
12月	クリスマス祝会
3月	卒業パーティ

スポーツ大会｜10月13日(土)

Q 今年度の大会を計画するにあたって工夫したことはありますか？

A まず、**競技を再検討**しました。例年行っていたバレーボールは経験者とそうでない者の差が出すぎてしまって全員が楽しめなかったので、チーム・サークルごとで**差が出ないよう今年はドッヂボールに変更**しました。次に、**告知の方法も変更**しました。従来は掲示板への掲示のみでしたが、今年は開催通知と参加申込書が一緒になったチラシを作成して、学生全員が参加する**秋セメスターガイダンスで配布**しました。これなら学生全員の目に留まるので、**いつもより学生への周知は広くできた**と思います！

スポーツ大会の打ち合わせの様子。学友会の集まりはいつも学生センター棟2階の学友会室で行っています。

Q 本番はどうだった？

A 告知方法の変更が功を奏して、参加者が昨年の3倍、**約150名に増えました。**熱き闘いが繰り広げられる中でもケガ人を出すことなく終えることができて、ホッとしています。

Q 来年度へ向けて後輩へ引き継ぐことはありますか？

A 今年度より更に多くの学生が参加できるよう、**開催時期の検討を含め早い時期から準備を進めていくこと**を引き継いでいきたいと思います！

2007年度学友会役員（すべて2年次生）

役職	氏名	学部
会長	矢田崇之	リハビリテーション学部
副会長	坂本絵里佳	看護学部
副会長	筒井さくら	社会福祉学部
副会長	豊田航矢	リハビリテーション学部
会計	岸田祐子	看護学部
会計	松野文香	看護学部

学友会会長から

今年度は、昨年度までの活動を通して良い点は引き継ぎ、改善が必要だと思われる点は見直して学友会をより良いものにしていきたいと思います。

例えば、昨年度の先輩方が取り組んだ禁煙問題について、学友会では暫定的喫煙場所でのマナーに自ら気づいてもらえるようなポスターなどを作成することと併せて、禁煙に対する啓発活動にも積極的に取り組んでいきます。また、今年からは禁煙活動だけでなく、駐輪場やエレベーター、学生ホールなど学内でのちょっとしたマナーについても考えてもらえるようにし、一人ひとりが利用しやすい大学を創っていきたいと思っています。

さらに今年の行事では、学友会が一丸となって事前の話し合いや準備を十分に進め、スポーツ大会などを通じて学部間の交流を深めていくと共に、大学祭での健康祭り等への参加を学外に向けても積極的に周知し、地域の方々と一体となって盛り上げていきたいと考えています。学友会だけでは至らないこともあると思いますので皆様のご協力もよろしくお願いいたします。

学友会会長
矢田 崇之
リハビリテーション学部 2年次生

今回は普段目にできない
学生たちの活躍をお伝えします。

活躍してます 在学生!!

在学生による プレゼンテーション 『血圧測定をしてみよう！』

説明している様子… キンチョーしました。

うまくできますか？
一緒に血圧測定

プレゼンメンバーは、看護学部2年の藤野泉さん、土屋晃子さん、藤井光さん、松本早織さん、深瀬由希さんの5名。当日は先輩有志も手伝ってくれました。

準備

「血圧ってなんだろう？」から説明しよう

説明用の模造紙をメンバー5人で作成。説明はQ＆A方式に決定。メンバー全員が揃える日が少なく、話す内容は個々で考えることに。もう少し時間があればもっと打合せができたけど…。

当日

参加者と一緒に血圧測定

1回目、1箇所だけで模擬測定を行ったところ見にくくてわかりづらいという声が。それを踏まえて2回目は2箇所で行い、よく見えるように改善。説明もわかりやすくするよう心がけました。予定より開始時間が早まったためアドリブで学生生活のことについて話したり、思いがけないこともありましたが、皆でアイデアを出し合って最後まで責任を持ってやることができました。終わった後は充実感でいっぱいでした。

参加者と在学生の交流

社会福祉学部2年塩崎源一郎くんに話を聞きました。

手づくりのスライドを使って参加者に学生生活を紹介しました。授業の様子は先生の許可を得て自分たちで撮影。雰囲気が硬くならないように…。自分の入試の時の経験も話しました！

個別相談

「在学生との交流」の時間に話したボランティア活動について、高校生から質問が。福祉に興味を持ってもらえたようでよかった。

オープンキャンパス

大学を訪れた高校生や保護者の方々に大学の魅力を紹介するオープンキャンパス。
受付に始まり、体験授業に個別相談、キャンパスツアー… そこでは多くの学生たちが活躍しています。

2007年度
夏 **7月29日(日)・8月25日(土)・9月15日(土)**
秋 **11月3日(土)**　春 2008年 **3月27日(木)**

平常心是道

横山　茂樹（よこやま　しげき）
リハビリテーション学部　准教授

■最終学歴：長崎大学大学院教育学研究科修士課程（教育学修士）
■所属学会：日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本体力医学会、臨床歩行分析研究会、スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
■研究テーマ：スポーツ障害に関する理学療法

"Professor"とは、"告白する人"である。先の学内FD研修会で、最も印象に残ったフレーズである。私が教員生活に入ったのは、6年前である。それ以前の14年間にわたる臨床現場では、整形外科疾患の術後リハビリから保存療法まで、小児疾患や呼吸器疾患患者に対するリハビリ、地域保健所との連携による訪問リハビリ等々、幅広いリハビリテーションを学ぶ事ができた。それらの体験の中から、"告白する人"として、学ぶべき事、身につけるべき事を整理して、学生に伝えていきたいものである。

これまでスポーツリハビリテーションに携わる中で、全国大会へ出場するレベルの高校生達と触れ合う機会を多く得た。その経験の中で、私自身が彼らから教わったことは、県代表や全国制覇を目指すという目標に対する実行力である。やるべき事をしっかり行い、それを継続する姿勢には、感心させられた次第である。いま私が大学生に求めたいものは、まさしくこの高校生らの自己実現に向けた日々の姿勢である。大学生として、目標をしっかり見据えて、1歩1歩、着実に進むべき方向へ歩む能力を培って頂きたい。また私自身も教育者として援助していきたい。

「理学療法」は、医療分野のみでなく、福祉から健康増進分野まで幅広い守備範囲の中で、エビデンスに基づくアプローチが求められている。このような状況下、研究者として重要なことは、やはり臨床に根づいた研究であり、原因追及を解明する「基礎的研究」と効果判定を追究する「介入研究」であると考えている。私自身の研究課題は、「機能的な関節運動の獲得に向けた理学療法」であり、より正確な関節運動を把握するためレントゲンを用いた運動解析手法に取り組んでいる。また機能的な関節運動を習得するためのストレッチやトレーニングの効果判定について、介入研究を試みている。例えば、ストレッチポールを用いた姿勢改善および腰痛予防プログラムの開発に取り組んでいる。（簡単かつ面白い方法なので、是非一度ご体験下さい。）このような研究活動を通して、一人でも多くの人が関節や筋の痛みから開放され、健康で充実した生活を過ごしていただけるように、援助していきたい。

このような「教育・研究」スタイルから、一教育者として、一研究者として、さらに一治療家として、目標に向かって自己実現できるように日々の取り組みを大切にしたい。

情の機微を紡ぐ人

小川　恭子（おがわ　きょうこ）
社会福祉学部　准教授

■最終学歴：北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程（教育学修士）
■所属学会：日本福祉文化学会、北海道子ども学会、北海道児童青年精神保健学会、北海道心理学会等
■研究テーマ：児童養護施設におけるソーシャルワーク実践、家族支援

晩秋のある日、電話が鳴り響いた。取りあげた受話器から聞こえる懐かしい声。「先生、お久しぶりです。実は……」。1児の母となった彼女からの子育ての相談だった。「そう、大変だったわね」と相槌をうちつつ、今の生活を大切に生きている様子に安堵する。「自分の子どもには私と同じ思いはさせたくない」と高校生のときに語っていた彼女。私の研究テーマである「児童養護施設におけるソーシャルワーク実践」と「家族支援」は、児童養護現場での子どもたちや家族との出会いがその原点にあります。

漠然としたものではあったものの対人関係の職につきたいと願っていた私は、教員養成の大学卒業と同時に、恩師の影響もあり児童福祉の世界に進み、そこで、児童養護問題は社会問題の縮図であることに気付かされました。特に近年では、家庭の養育機能の低下が論じられる中、親の社会的不安や情緒的未成熟による被虐待児童や情緒障がい児童の増加が要養護問題の多くを占めています。それに伴い、本来は家庭代替機能として子どもを養育する場であった児童養護施設にも、不適切な養育環境におかれていた子どもへの対応、児童と保護者の関係調整、家族が抱える生活課題への支援、地域への支援等を充実させ実践することが求められてきました。

そこで、要養護児童とその家族の支援に向けてもう1度学ぶ必要性を感じ進んだ大学院では、「ケースマネジメント試案による家族支援プログラムの作成」を主なテーマとしました。複雑な家族問題のために親子分離を余儀なくされながら、「子を思う親」「親を慕う子」の姿は常に存在していました。その情の機微を理解し、絆を確かなものにしていくために、ファミリー・ベスト・サービスの考え方（現状の親子の絆をより強化して、両親を支持することが、結局は子どもたちを保護するために最も効果があり、実利的な方法とする考え方）を取り入れ、支援のあり方について考えました。

「理解は最大なるアプローチ」といいます。出来事を二面的に理解するのではなく、多面的・内面的に理解するための感性を磨き、スキルを身につけ、情の機微を理解できる粋なソーシャルワーカーの養成を目指し、新年度開設されるこども教育福祉学科の学生とともに今後も学びを深めていきたいと考えています。

シリーズ／聖書のことば［長谷川保と聖書］

文字ではなく、
"霊"によって
心に施された割礼こそ
割礼なのです。
（ローマの信徒への手紙2:29）

聖隷クリストファー大学の創始者たちの精神は、形（かたち）ではなく実質を大切にする精神であったと言うことができると思います。結核患者を助け始めた創始者たちは、形なんかにかまっていることはできませんでした。

この精神は彼らの信仰から来ていました。イエス・キリストがそのような生き方をなさったからです。キリストは病人を癒したりすることで忙しかったと聖書に書いてあります。

使徒パウロは、このキリストの精神を受け継いでいました。律法を守り、形を整えることを大切にしていた人々に、形よりも心の方がより大切であることを語っているのがこの聖句です。

ユダヤ教徒は、男児の場合、生後八日目に割礼を施していました。割礼とは陰茎包皮にメスを入れて切り開く儀式でした。毎日幾度となく用を足す部分が、傷ついているのを見る度に、彼らは自分がイスラエル民族の一員であることを確認することができました。

しかし、そのような形よりも、聖霊を受けることによって、心に刻み込まれたキリスト信仰のほうがより大切なのです。私たちも形より実質を求める聖書の教えを大切にしたいと思います。

聖隷学園宗教主任／鈴木崇巨

大学後援会から

2007年度保護者懇談会報告
今年度は学部ごとに別日程で開催しました

保護者と大学とのコミュニケーションを図る機会として2002年度から大学後援会との共催により保護者懇談会を開催しています。今年度は
・3学部すべてが4学年揃い、学生数が増えたこと
・学部ごとに課題となることが異なるため、より適した時期に開催すること
を理由に、学部ごとに日程を変えて行いました。

［今年度の開催状況］ 多くの方にご参加いただきありがとうございました。

学部	開催日	参加者数
社会福祉学部	2007年 7月 7日（土）	87組104名
リハビリテーション学部	2007年 9月29日（土）	84組101名
看護学部	2007年10月27日（土）	101組119名

参加されたことのない保護者の皆様へ
お子さんが学ぶ場にぜひ一度足をお運びいただき、実際に見て感じて、ご意見ご要望をお聞かせいただければ幸いです。ご参考に、保護者懇談会の1日の流れをご紹介します。

■保護者懇談会の1日の流れ　※2007年度例。学部ごとに一部異なります。

10:00	受付	配布物／プログラム、履修要項・シラバスの抜粋、キャンパスライフ（学生生活の手引き）、就職・進学ガイドブック等
10:30	懇談会	学部長あいさつ 担当教職員から（学生生活・授業・国家試験・就職等について） ※学部によっては全体懇談会の後、学年別、専攻別に分かれて懇談会を行いました。
12:30	昼食・休憩	学生ホール（食堂）で、日頃学生たちが食べているメニューを体験していただきます。保護者の方同士や教職員と交流を深めていただく場としてもご利用いただけます。
13:30	個別相談	希望する保護者の方には個別に質問にお答えする時間を設けています。 ご相談内容に応じて、アドバイザーの教員のほか就職・学生サービス・教務事務・国際交流等各センターの職員がお答えいたします。
	校舎見学	希望する保護者の方を実習室、図書館、コンピューター教室、聖隷歴史資料館にご案内します。 ※聖隷歴史資料館では今年度、聖隷学園の特別展が行われており、学園や大学の歴史が詳しく紹介されています。

掲示板を見学する保護者の方々

看護学部：基礎看護実習室／学生が実技の練習をしているところを見学できました。

新任教員紹介
［8月1日付け就任］

［看護学部］精神看護学　助手
小畠　公子（こばたけ　さとこ）
●出身校／聖隷クリストファー大学看護学部
●前勤務先／聖隷三方原病院
●専門分野／精神看護学
「大学時代に得た経験はきっと、かけがえのない宝物になると思います。皆さんの宝探しのお手伝いができたら嬉しいです。」

教育力向上のための取り組み

[全学FD活動報告]

【FDとは】Faculty Developmentの略。
大学の授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究等の総称。

全学FD委員会主催「教育力向上のための取り組み」として
今年度は2つの新しい取り組みが行われました。
いずれも多くの教員が積極的に参加し充実した研修となりました。

全学FD宿泊研修

全学FD委員会主催の宿泊研修が9月3日(月)・4日(火)の両日、静岡県立森林公園森の家で行われました。全学でのFD活動としてはこれまでも学内で講演会などを開催して来ましたが、今年は教員のさらなる教育力のアップをめざして、本学に就任して日の浅い教員を中心に、合計40名が参加して行われました。1日目は、日本学術振興会の岡本和久氏から科学研究費補助金について、制度の最近の変更点や、応募のポイントについてお話ししていただきました。午後からは静岡大学　大学教育センターFD部門長で、本学の学部共通科目「教育学」の非常勤講師でもある三浦真琴先生から「大学教授法の基礎」「多人数授業の教授法」等についてご講義いただきました。特に「教員の陥りやすい落とし穴実験」(どんなものかは参加してのお楽しみ)など目から鱗の連続で、教えるということの姿勢を考え直す良い機会となりました。夜は施設内のレストランまつぼっくりから旧浜北市街の明かりを眺めつつ講師を交えての夕食兼懇親会、さらに有志によるミーティング。これらの機会は日ごろ交流の少ない他学部教員とのまたとない交流の場となりました。

2日目には、岐阜大学医学教育開発センターの藤崎和彦先生から「医学教育の基本的な考え方と近年の医学教育の世界的動向」など4つのテーマについて、終日ご講義いただきました。午前はグループワーク、午後は学生ボランティアによる模擬患者へのインタビューを見て参加型学習法について考えるなどの活動が織りこまれ、新しい情報満載のお話でした。すばらしい自然の中、中身の濃い充実した研修でした。この成果は必ずや今後の教育活動に生かされるものと思います。

なお、この合宿FD研修は3年計画で本学の全教員が参加することになっています。

(全学FD委員／看護学部教授　鈴木恵理子)

	時間	内容	講師
9月3日(月) 第1日目	9:20-10:20	オリエンテーション	
	10:30-12:00	「科学研究費補助金について」	岡本和久氏 (独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成第一課課長)
	12:00-13:00	昼　食	
	13:00-17:00	1.「大学教授法の基礎」 2.「多人数授業の教授法」:本学の授業評価の分析 3.「成績評価の方法」 ＊講義・グループワーク・実験	三浦真琴教授 (静岡大学)
	18:00-20:00	夕食・懇親会	
9月4日(火) 第2日目	9:00-12:00	1.「現在の医療者教育の現状と問題点」 2.「医学教育の基本的な考え方と近年の医学教育の世界的動向」 ＊講義・グループワーク	藤崎和彦教授 (岐阜大学)
	12:00-13:00	昼　食	
	13:00-16:00	3.「医療者教育における新しい学習方略と評価方法」 4.「コミュニケーション教育の参加型学習法の実際」 ＊模擬患者・OSCE・PBL・ポートフォリオ	藤崎和彦教授 (岐阜大学)

グループワークでの様子

教員の陥りやすい落とし穴実験(スキーマ体験)の様子

大学院FDサロン

参加者は教員・院生・受講生合わせて38名、軽食をとりながらリラックスした雰囲気の中で積極的な意見交換がなされました。

大学院FDサロンは、大学院教育の質の向上を図るため授業評価のあり方を考える目的で今年度初めて行われました。

全学FD委員会としては初の試みでもあり、様々な方法が検討されましたが、今回は社会福祉学部志村健一教授が担当する「社会調査特論」における授業内容と教授方法をモデルとして公表し、院生および受講生を含む参加者による講評を行う方式で行いました。参加者からはそれぞれの立場に基づいて多様な意見が出され、大学院における授業評価は、従来のマークシートによる画一的な方法では困難なようにも思われました。また、互いに授業に参加し合うといった具体的な提言もあり、予定時間を越えて活発な議論が交わされました。

大学院の授業は少人数制であり、授業スタイルも学部とは異なるため、授業評価の方法については課題も多く、今回の試みは、大学院におけるFDのあり方を考えていく上で大変有意義でした。

(全学FD委員／リハビリテーション学部教授　長谷川賢一)

CHRISTOPHER news
クリストファーニュース

国際交流

ブラジル希望の家から研修者2名をお迎えしました

4月～翌年1月の9カ月間という長期に渡り、聖隷グループの1つである「ブラジル希望の家」から初めて研修者2名をお迎えしています。研修者は、心理療法士のベアトリーズ　みえ　内村さん(日系2世)と理学療法士のサンドラ　ちえみ　竹中さん(日系3世)。"研修者の専門分野だけでなく、実習を通して、幅広い技術・職員指導・障がい者との共生・心構え等について学び、将来希望の家の経営スタッフとして活躍できること"、"研修者派遣"により、聖隷グループ・聖隷学園と希望の家との絆を更に深め、姉妹団体として互いに維持発展していくこと"を目的として、聖隷学園をはじめ、遠州栄光教会、聖隷福祉事業団、神戸聖隷福祉事業団、牧の原やまばと学園、その他聖隷関連施設にて、充実した研修を行っています。

向かって左がみえさん、右がちえみさん

神戸愛光園での研修の様子

就職支援

今年度初めて卒業生を送り出すリハビリテーション学部 初めての病院・施設説明会を行いました

この説明会は2008年3月に卒業を控えたリハビリテーション学部4年次生を対象としたもので、病院・施設の概要や求める人材、採用基準などを聞き、各病院・施設への理解を深めるために実施しました。午前の部は、聖隷福祉事業団の病院・施設の方をお招きして開催。全体会では、聖隷福祉事業団におけるリハビリテーションの取り組みについての講話のほか、人事部から聖隷福祉事業団の概要や採用方針、採用試験の方法等について説明があり、その後、病院・施設ごとのブースに分かれての相談会が行われました。午後の部では、静岡県内を中心とした14の病院・施設をお招きし、相談会を開催。出席した66名の学生たちは、個々に関心のある病院・施設のブースに赴き、人事担当者等による説明を熱心に聞いていました。

参加した学生からは「各病院・施設によって雰囲気が違い、その中で就職について深く考えることができた」「大変参考になった。このような話を聞く機会が自分ではなかなか作れないため、この会をきっかけに自分で行動に移りたい」などの感想が聞かれました。

公開講座

子育て支援に関心をお持ちの専門職・一般の方対象『子どもと親のウェルビーイングの促進 ～家庭で、地域で支えあう子育てを目指して～』

2007年6月30日(土)東洋大学社会学部長の高橋重宏教授をお招きし、日本の子育て支援の現状と課題を中心に、子どもと親のよりよいあり方、地域社会に求められる役割について、ご講演いただきました。保育士・幼稚園教諭など子育て支援に携わる専門職の方やお子さん連れの親御さんなど一般の方、合計113名の方が参加、講演後には活発な質疑応答が行われ、充実した時間を共有しました。

来年度社会福祉学部に『こども教育福祉学科』を新設する本学にとっても意味のある講座となりました。

図を描いて説明する高橋重宏教授。丁寧な資料と説明で難しい問題もわかりやすくお話くださいました。

特別講義・公開講座

アメリカ　コロラド大学デンバー校 ヘルスサイエンスセンター 看護学部教授・教育担当副学部長 キャシー・マギルビー博士が来学しました

2007年9月26日(水)～29日(土)質的研究の専門家として名高いマギルビー博士をお招きし、看護学研究科大学院生向け・看護学部生向けの特別講義、地域の看護専門職向けの公開講座をそれぞれ行いました。大学院生向けには『Qualitative Research Methods in Nursing　看護における質的研究』という研究中心のテーマ、学部生向けには『Nursing Education in the USA 米国における看護教育』、地域の看護専門職向けには看護現場での実践に役立つ『Foundation of Qualitative Research Methods in Nursing 看護における質的研究の基礎』と、それぞれ対象に合わせたテーマでご講演いただきました。

マギルビー博士公開講座での質疑応答の様子。講演、質疑応答ともに本学看護学部濱畑教授が通訳しました。

研究助成

■2007年度科学研究費補助金　採択結果

所属	職位	研究代表者	区分	研究種目	研究課題
看護学部	教授	稲垣健治	継続	基盤研究（C）	ネットワークコンピュータを介した看護自己学修の促進と支援プログラムの開発
看護学部	准教授	森本悦子	継続	若手研究（B）	外来通院で緩和的治療を継続するがん患者への看護に関する研究
看護学部	准教授	酒井昌子	継続	基盤研究（C）	訪問看護ステーションにおけるナレッジ・リーダー育成プログラムの開発と実践的研究
看護学部	助教	篠崎恵美子	新規	基盤研究（C）	臨床と教育の両者が求めるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ
助産学専攻科	講師	宮本雅子	継続	若手研究（スタートアップ）	自由な分娩体位の安全性に関する研究　―施設内の導入に向けて―
リハビリテーション学部	教授	大城昌平	新規	基盤研究（C）	ハイリスク児の親子教育プログラムと子育て支援ネットワークの開発

■2007年度共同研究費　配分状況

本学では、本学の教育研究水準の向上に貢献するもので個人研究費では行うことのできない研究を専任教員が一人若しくは共同(学外研究者含む)で行う研究計画に対して共同研究費を配分しています。2007年度は、学長奨励研究A（2005･2006年度中に科学研究費補助金等の学外競争的研究資金に応募して採択からもれた研究）、学長奨励研究B（昨年度に導入した光トポグラフィ装置を使って行う研究）、若手奨励研究（講師･助教、助手が研究代表者になり単独または学内外の若手研究者と共同で行なう研究）、一般研究枠（新任教員枠及び再募集を含む）について公募を行い、下記の研究課題に研究費を配分しました。

また、昨年度に共同研究費が配分された全ての研究課題については、本学1号館玄関ホールにおいて、5月21日から28日にかけて、1回に13～15課題ずつ3回に分けてポスターセッション形式の報告会を開催しました。

種別	所属	職位	研究代表者	区分	研究課題
学長奨励研究A	看護	准教授	坂田五月	継続	新人看護職員による安全な静脈注射研修プログラムの開発　―「安全な看護実践―静脈注射―」研修の評価―
	看護	講師	石塚淳子	新規	ライフコースアプローチによる看護教師の力量形成に関する調査研究
	看護	講師	佐藤道子	継続	看護教育における創造性育成に関する研究　―創造性を育成するための教育方法の開発―
	リハ	教授	顧寿智	継続	腎臓移植における抗原特異的制御性T細胞に関する慢性拒絶反応の抑制
学長奨励研究B	社福	准教授	店村眞知子	継続	音楽療法「治療のためのコンサート」の精神生理学的評価
	リハ	教授	大城昌平	新規	聖隷ノーベルプロジェクト「リハビリテーションと脳イメージングに関する研究」
	リハ	教授	原和子	新規	絵画療法の有用性と課題　―光トポグラフィによる基礎的研究―
	リハ	教授	宮前珠子	新規	光トポグラフィ装置による各種作業時の脳血流の分析　―作業の意味の解明にむけて―
若手奨励研究	看護	講師	岸あゆみ	新規	対人援助職者に求められるコミュニケーション能力育成に関する研究
	看護	講師	仲村秀子	新規	国際家族看護学会発表（タイ）およびタイにおける看護教育、保健医療制度の視察
	看護	講師	米倉摩弥	継続	初学者と熟練者におけるボディメカニクスの相違についての量的検討
	看護	助手	西本桂子	新規	結果よりも過程重視の評価法　―看護基礎教育にポートフォリオを活用してみて―
	社福	助教	福間隆康	新規	社会福祉施設の社会的機能
	社福	助手	今井淳	新規	ケアワーカーのストレスと離職に関する調査
	リハ	講師	中路純子	新規	保育園児の発達状況の現状調査
	リハ	講師	西田裕介	新規	等尺性収縮による上肢抵抗運動の安全性に関する基礎研究（筋酸素動態、血糖値、乳酸値を中心とした生理学解析）
	リハ	助教	重森健太	新規	Assessment of Balance Function and Risk of Falling Using the Elderly Balance Board in the Oldest Elderly
	リハ	助教	鍵木健	新規	リハビリテーション特化型通所ホーム（仮）モデル事業に関する研究
	リハ	助教	根地嶋誠	新規	片脚着地動作における左右差について
一般研究	看護	教授	安孫子誠也	新規	石原純の光分子理論とド・ブロイの物質波理論
	看護	教授	濱松加寸子	新規	キャリアをもつ助産師の学習ニーズの実態把握
	看護	教授	渡邊 順子	新規	ナノテクノロジーを利用したフィジカルアセスメントに関するセルフラーニング教材の開発
	看護	准教授	入江 晶子	新規	アロマセラピー、足浴、足部マッサージによる大脳皮質の活動性の比較
	看護	准教授	小宮山博美	継続	母親から見た在宅重症心身障がい児のきょうだいに関する困りごととその対応
	看護	准教授	酒井昌子	新規	地域連携を促進する院内認定訪問看護師の退院支援の実践に関する調査および院内認定訪問看護師育成プログラムの評価
	看護	准教授	鈴木みちえ	継続	「大学生の健康習慣および自己管理スキルに関する縦断的調査」　―学年進度による変化と関連要因―
	看護	講師	石塚淳子	新規	CPS（創造的問題解決法）による看護教育方法の開発
	看護	講師	佐藤道子	新規	創造性に関する実態調査
	看護	講師	冨安 眞理	新規	在宅療養者とその家族のQOLにつながる訪問看護実践効力尺度の開発
	看護	講師	三輪木 君子	継続	清拭後の水分のふき取り、覆いによる保温の有無が生体に及ぼす影響
	看護	助教	大塚 静香	新規	スタッフが施設の認知症高齢者と関係を継続する要因
	看護	助教	篠崎恵美子	新規	看護学教育に貢献する模擬患者養成および模擬患者参加型教育に関する研究
	看護	助手	堤美恵	新規	NICUに入院となった児の母親への母乳育児支援　―産科病棟における搾乳指導の実状と指導に対する看護者の認識―
	社福	教授	小松　啓	新規	ホームヘルパーによる援助業務の有効性の検証に関する研究
	社福	教授	志村健一	新規	聖隷福祉事業集団におけるリーダーシップに関する研究
	社福	教授	林玉子	新規	少子高齢社会における最適居住環境の形成に関する研究　―史的変遷をふまえて高齢者福祉施策・施設・住居体系の成長変化に影響をおよぼす要因を把握し方向性の確立に寄与する示唆を導き出す―
	社福	准教授	大場義貴	継続	精神障害に対する偏見克服に関する研究
	社福	准教授	小川 恭子	新規	地域支援システムに関する考察
	社福	准教授	根本久仁子	継続	国立ハンセン病療養所ソーシャルワーカーの役割機能に関する考察
	社福	助教	小川 千晴	新規	認定こども園における子育て支援の可能性について
	社福	助教	木村 幅男	新規	ケアマネジメントにおける家族支援
	社福	助教	高木邦子	新規	介護・福祉職におけるリアリティショックの規定因と関連要因の探索
	社福	助手	野方　円	新規	ボディ・メカニクスに基づく介護技術の解析
	リハ	教授	大城 昌平	新規	中国の母親の妊娠中・出生後のストレスと胎児・新生児の発達
	リハ	教授	顧寿智	新規	同種骨髄移植における移植片対宿主病を防ぐ免疫恒常性の効果とメカニズム
	リハ	教授	小島千枝子	新規	摂食・嚥下訓練への舌圧センサー導入の有効性
	リハ	教授	立石恒雄	継続	高齢者施設入所者を対象とした補聴器適合候補者選別のための質問紙の開発
	リハ	教授	平野美津子	新規	看護学生に求められる英会話力　―英語によるベッドサイドコミュニケーション―
	リハ	准教授	大町かおり	継続	食事動作における効率判定手法の開発
	リハ	准教授	木村　朗	新規	産業保健分野における「生産性へ寄与する身体活動」の介入効果の検証
	リハ	准教授	新宮尚人	継続	精神障害者の地域生活ニーズと作業遂行能力に関する予備的研究
	リハ	准教授	山崎せつ子	継続	義務教育終了後まもない障害児をもつ親が語る進路選択に対する思い
	リハ	准教授	横山茂樹	継続	股関節機能が下肢荷重時における膝関節回旋運動に与える影響
	リハ	講師	足立さつき	新規	長期にST訓練を実施した言語発達遅滞児の家族支援について
	リハ	講師	西田裕介	新規	非侵襲的身体組成評価システムの開発
	リハ	助教	重森健太	継続	高齢者の脊柱後彎と頸部角度の関係が後方バランスに与える影響
	リハ	助教	水池 千尋	新規	理学療法学専攻学生の臨床実習のストレス評価と教育指導
	リハ	助手	池田泰子	新規	STとST養成校学生の言語発達障害児の評価内容を比較して　～ST養成校関連クリニックにおける演習を通して～
	リハ	助手	宇野木昌子	新規	語想起力低下と注意機能の関連
	リハ	助手	藤田さより	継続	園芸活動に関する基礎的研究　―作業療法学的有用性と課題―

※所属欄の「看護」は看護学部、「社福」は社会福祉学部、「リハ」はリハビリテーション学部

お知らせ

大学より

公的研究費の管理・運営に係る責任体系を制定しました

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（文部科学省,平成19年2月15日付,18文科科第829号通知）を受け、公的研究費の管理・運営に係る責任体系について制定いたしました。

最高管理責任者:聖隷クリストファー大学　学長
統括管理責任者:聖隷クリストファー大学　総務部長
部局責任者　　:聖隷クリストファー大学　総務部長
　　学校法人聖隷学園　法人事務局　財務部長

不正使用・不正行為に係る通報・申立の窓口は本学ホームページをご覧ください。
http://www.seirei.ac.jp/web/info/index.html

学生ホールでインターネットが使えるようになりました

2007年6月末、学生ホールに無線LANのアクセスポイントを設置し、インターネットが使えるようになりました。貸出しPC16台分はLANカード挿入により接続が可能、また、私用PCは電算センターでの登録設定後接続可能となりますので、学生の皆さんはどうぞご利用ください。

今年度の卒業式・卒業パーティは3月12日（水）に行います

「2007年度学位記授与式・卒業式・修了式」はアクトシティ浜松中ホールにて、「卒業パーティ」はグランドホテル浜松にて、2008年3月12日（水）に行います。卒業年次の保護者の皆様には追ってご案内状をお送りいたします。たくさんの保護者の方々のご出席をお待ちしております。

大学図書館より

2007年度から卒業生への図書の貸し出しを開始しました

■貸し出し要領／［対象者］同窓会会員［貸し出し冊数］2冊まで（ただし一部貸し出しできない書籍あり）［貸し出し期間］2週間
■手続き／会員本人が来館し、貸し出し手続きを行う。その際、在学時の学籍番号を申し出る。（在学時の学籍番号は学生サービスセンターで確認できます）

売店より

2007年11月5日（月）から売店の営業時間を変更しました

秋セメスターガイダンス時に行った「在学生対象満足度調査」に売店の営業時間に対する要望が多数寄せられました。それを受けて、2007年11月5日（月）から売店の営業時間を変更することになりました。今後ともたくさんのご利用をお待ちしています。
◎新営業時間／10:00～18:40（昼休憩なし）

― 訃 報 ―

リハビリテーション学部言語聴覚学専攻1年次生の上原こずえさんが2007年10月17日（水）10時35分にご病気のため亡くなりました。入学前から重い病気を抱えながらも前向きに勉学に励んでいるこずえさんの姿には教職員ならびに学生一同大きな勇気を与えられました。こずえさんに感謝するとともに心よりご冥福をお祈りいたします。

― 訃 報 ―

社会福祉学部教授・介護福祉専攻主任の矢部弘子先生が、かねてより病気療養中のところ2007年11月11日（日）に亡くなりました。2002年の就任以来社会福祉学部の中核を担い、学生ならびに教職員から厚い信頼を得て活躍されていた先生を失い残念でなりません。矢部先生に感謝するとともに心よりご冥福をお祈りいたします。

Q1　本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。（具体的なご意見もお書きください）

1　読みやすい　　2　読みにくい

Q2　本誌で興味を持たれた記事に○印をおつけください。（いくつでも）

1　特集 禁煙宣言　　2　特集 活躍してます 在学生!!　　3　私の教育・研究
4　保護者懇談会報告　　5　聖書のことば　　6　教育力向上のための取り組み
7　クリストファーニュース［具体的に　　］
8　研究助成　　9　お知らせ［具体的に　　］

Q3　本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

読者アンケートのお願い

読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございました。主なご意見・ご質問に関する回答は後援会のホームページに掲載しています。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お便りお待ちしています。